

カトリック

# 広島教区報

No. 89

カトリック  
広島司教区

発行責任者  
広報担当  
服部大介神父

「点訳版」あります。  
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42  
広島司教区内  
TEL (082) 221-6017

## 日本 26 聖人列聖 150 周年感謝ミサ



ジョセフ・チェノットウ 教皇大使と前田万葉司教

### 聖ディエゴ喜斎の遺骨

### 故郷の地岡山に里帰り

岡山教会

### ディエゴさま お帰り芳賀へ 時鳥

広島教区長 前田万葉司教

日本二十六聖人列聖百五十周年記念感謝行事が、京都、広島、長崎の三教区共催で執り行われました。岡山での行事も盛大かつ荘厳のうちに無事終え、岡山教会はじめ教区内の皆様方、特に特別共催をいただいたイエズス会様に心から感謝申しあげます。岡山での行事の特徴は、イエズス会のご協力により、聖ディエゴ喜斎の遺骨を迎えて行われたことでした。

六月八日(金)午後三時ごろ、さみだれの中、岡山教会に聖ディエゴ喜斎の遺骨が到着しました。右腕の骨の一部が右腕を横った箱に収められていました。あの聖フランシスコ・ザビエルの聖腕を想い、「十字を切った

聖ディエゴの右腕の骨の一部」などと、感動の十字を切って迎えたのであります。十字切りし  
ディエゴの腕や  
みこころ月  
午後四時から六時まで、三十分交代でグループを組み、聖ディエゴ喜斎の遺徳を称え、取次ぎを祈りました。明日の芳賀の里への帰郷が天候に恵まれますようにと「さみだれやディエゴ喜斎の里帰り」の句にその祈りを託しました。翌九日(土)の午前十時



芳賀の里での祈り

同日午前十一時半、岡山教会に帰り、日本二十六聖人列聖百五十周年記念感謝ミサが始まりました。サブテーマとして「ディエゴ喜斎の里帰りミサ」と銘打ったこのごミサは、岡山教会始まって以来の最も荘厳かつ盛大なミサとなりました。参加者全員の心



聖ディエゴ喜斎の右腕の遺骨



みこころの  
月や殉教  
受け継ごう

半、教皇大使はじめ六人の司教が、芳賀の里へのディエゴさま聖骨の帰郷に同行しました。里では、多数の司祭、修道者、信徒、それに宗教を越えて数人の地元有志の方が歓迎し、取次ぎの祈りなどささげたのであります。また、聖人の殉教から四百十五年という時空を越えての、時鳥たちの歓迎もありました。

は、聖ディエゴの心、主イエスの心と同じものになったかのようでした。ジョセフ・チェノットウ 教皇大使は、「信者の方が言ったように、これからは私たちの(殉教の)時です。」という手紙を寄せてきました。

日本二十六聖人列聖百五十周年感謝ミサ  
教区の動き 平和行事  
教区災害サポーター情報・J-CaRM 四面  
世界平和記念聖堂保存活用委員会報告 五面  
地区・海峡からの風・施設・青少年・ひと粒 六〜八面

一・二面  
二・三  
二・三  
二・三  
二・三  
二・三

**教区の動き**  
**【二〇一二年度(第二回)**  
**広島司教区宣教司牧評議会開催**

平和の使徒推進本部



第1回教区宣教司牧評議会の様子

去る六月三日、二〇一二年度第一回広島司教区宣教司牧評議会(以下、教区宣司評)が、広島カトリック会館多目的ホールで開催された。前田司教、司祭、修道者、信徒の二十六人が出席した。

はじめに前田司教から「教区の発展のため、リーダーシップを発揮してほしい。信仰年に向けて、教区のサブテーマを心に留めて頂きたい。そして『平和の使徒』となるために、共に努力していきましょう。」

と挨拶があった。

議題は、まず「平和の使徒となろう(ガイドライン見直し版)」として発刊された『平和の使徒になあれ!』の活用について、平和の使徒推進本部から説明があった。

続いて信仰年に向けての取り組みについて、前田司教から説明があった。

「信仰が薄くなってきた。だから信仰年が掲げられた。洗礼(宣教)の大切さ、信仰の大切さ、ミサの大切さを思い、信仰の再発見の年である。救いの恵みを多くの人に与えたい。信仰を根底に持って、平和の使徒となろう。」と説明された。

次に召命の取り組みについて、担当司祭から説明があった。

「各地区の担当司祭が集まり、話し合いを行い、次のことを話し合った。  
 ①十一月三日に予定してい

る召命の集いの呼びかけについて。  
 ②他教区の召命の状況や取り組みについて、調べらる。

③祈りの大切さを強調していく。

④司祭自身が強く祈ることが大切。

⑤教区の神学生の状況について。

⑥インターネットやフェイスブックを活用し、召命促進に利用してはどうかとの意見が出た。

説明の後、出席者の意見として、

●一粒会への献金のお願いと神学校受験を目指す青年のために、呼びかけに力を入れてほしい。

●召命促進、青少年育成を強くアピールするために、『平和の使徒』ガイドラインに組み入れるとともに、召命推進チームや青少年育成推進チームなどを立ちあげてほしい。

●教会学校で、召命の大切さについての学習を行ってほしい。

●青少年への期待や配慮に

ついて関心をもち、動き出した青少年たちを知り、温かく支援してほしい。

●教区内の学校法人の状況について、もつと関心をもち、減少する子どもたちの現状などについて、理解と意見交換が必要な時代になってきた。



●司祭が少なく子どもたちとの関わりが乏しい中で、召命は育みにくい。司祭は、司祭しかできないことに取り組み、信徒との関わりがもてるように全体を見据えた仕事の整理と配置が必要。

●教区宣司評の後半は、各地区、伯雲ブロックから、教区年間テーマに対する状況、信仰年に向けての取り

組み状況、召命、青少年育成に関する取り組み検討、各地区、ブロック独自の取り組み状況についての報告があった。

以上のことが話し合われた後、祈りと祝福のうちに教区宣司評を閉会した。前田司教のもと、教区民一人ひとりが「平和の使徒」に向かつて歩みましょう。意見や要望などは、平和の使徒推進本部まで。

『平和の使徒になあれ!』の活用について】

今年六月、皆さんの小教区宛てに配られた「平和の使徒となろう(ガイドライン見直し版)」として発刊された『平和の使徒になあれ!』の活用について、以下の四点のことに配慮ください。

- ①「自分には関係ない」と思わないでください。
- ②「教区から示されたものは、よく分らない」と思わないでください。
- ③今、行っている活動に照らし合わせてください。
- ④何も行動していない、あるいは、これから行動

しようと思っっている方は、これからの活動のヒントにしてください。《基本冊子と解説冊子の二種類の冊子があります。》

●基本冊子(カラー印刷版)は、信者全員が配布対象です。英語版も現在準備しています。

●解説冊子は、小教区レベルのリーダー的な位置付けの方(司祭、修道者含む)が対象です。  
\*部数が足りない場合は、教区ホームページからファイルダウンロードし、適宜、印刷してください。

●基本冊子の活用は、基本冊子と解説冊子を熟読された方を中心に、信徒が基本冊子の内容を深める機会を企画し、その中で、信徒が基本冊子の内容を理解できるように努めてください。

●内容についての質問や不明点は、所属地区で行われる宣教司牧評議会や学習会のような行事において確認してください。直接、平和の使徒

徒推進本部にお問い合わせも頂いても結構です。《ガイドライン活用の主旨について》

このガイドラインは、何もなし状況から新たに作り上げられたものではなく、二〇〇二年の広島教区大会以降の様々な広島教区の動きの中で、皆さんから出された教区が抱える問題、課題において、具体的により現実的に「平和の使徒」として行動するためにまとめられたものです。

皆さん自身が、現在、行っている宣教司牧活動に照らし合わせてみてください。何も行動していない、または、これから行動しようと思っっている方は、これからの宣教司牧活動のヒントとして捉えてみてください。「自分には関係ない。」教区から示されたものは、よく分からぬ。」「と

いった後ろ向きな捉え方ではなく、皆さんが「平和の使徒」として行動するための、『参考書』

と考えてみてはいかがでしょうか。《ガイドラインの活用例について》

●グループレベル、小教区レベル、地区・ブロックレベルの集いや行事の中で、ひとつのプログラムとして(信徒総会、黙想会、学習会、地区大会、ブロック大会、宣教司牧評議会など)

●要理学習の一環として  
●教会学校や青少年の学習の一環として

●受洗後、広島教区民としての意識付けに  
●他教区から転入された方への、広島教区民としての意識付けに

●活用の方法は、その場面、状況に応じて様々です。前向きで自由な活用を期待します。



基本冊子 (表紙)

## 2012 平和行事「つながり ～8・6と3・11を心に刻みつつ～」

日時：8/5(日)・6(月)・9(木)  
場所：世界平和記念聖堂他



平和行事 2012 ポスター

### 平和行事

#### 主なプログラム

##### 「八月五日の主なプログラム」

##### ●シンポジウム

13時30分～14時45分

テーマ：日本司教団の声明「いまずく原発の廃止を」福島第一原発事故という悲劇的な災害を前にして」

発題者：谷大二司教(さいたま教区教区長)、徳岡真紀さん(被災地からの避難者)

##### ●分科会 13時～16時30分

①被災地からの避難者の証言

②被災地ボランティアと福島への具体的支援拡大 柴田

潔神父(イエズス会司祭・山口教区)、藤本忠文さん

(防府教会)

③被爆証言 朴南珠さん(観音町教会)

④被爆証言 長谷川 儀神父(広島教区司祭)(予定)

##### ●原爆供養塔前での祈りの集い 17時30分～17時50分

●平和行進(原爆供養塔前) 本通り～世界平和記念聖堂 17時50分～18時30分

●平和祈願ミサ 19時～20時15分

##### 「八月六日の主なプログラム」

●原爆・すべての戦争犠牲者追悼ミサ 8時～9時

●世界平和記念聖堂案内 9時30分～12時

●ピースウォーク 9時30分～12時30分

●原爆犠牲者のためのスピリチュアルコンサート 18時～21時

エリザベト音楽大学同窓会

# 東日本大震災支援

山口教会助任司祭

柴田 潔神父

## 百の説法よりも捨て身の努力が大事

昨年六月、初めての被災地ボランティアに参加した塩籠（しおなご）ベースキャンプのリーダー蒲池さんは「神父さんの言うのもなんですが、百の説法よりも捨て身の努力が大事」と語ってくれました。ギリギリのところまで努力する蒲池さんの姿が、今はきれいに語る時ではないことを悟らせてくれました。

## 二本松幼稚園の支援

ボランティアから戻ってきて、私は汗をかきながら教会の向かいの亀山でカプトムシを探しました。山口教会・山口天使幼稚園協賛のバザーに少しでも協力するためです。四日間で計百匹以上見つけ、一万五千円の利益が出て、収益の合計百三十三万円にもなりました。支援先が話し合われた時、バザーの陣頭指揮を取られた山口天使幼稚園の保



護者会長の秋本さんから「目で見える支援を。できれば子供たちに。」という意見が出て、私が支援先を探すことになりました。まず、宮城県内のカトリック幼稚園に電話で問い合わせ、対象を福島県に広げたところ、放射能と地震の被害を受けたカトリック二本松幼稚園が候補に挙がりました。承認を得て、バザーの全収益を十月に送りました。支援金は、放射能を気にせず砂遊びできる空間（写真参照）、除染の手間が軽減する側溝のふたになり

ました。十一月には現地を訪問しました。保護者会長の渡辺さんは「お金をポンと出せる人はいます。でも、暑い中汗をかける人は少ない。二本松には浪江町から避難している人が大勢いますが、大丈夫ですか？」と声を掛けられる人は少ないです。」と言われました。私は、渡辺さんご自身が二本松に留まるべきかの葛藤を抱きながら、様々な意見を持つ保護者をまとめ、励ます姿に心打たれました。五月の再訪時には、人だけでなく大自然も放射能で苦しんでいるように感じました。今年も、福島のお友達のために百匹を超えるカプトムシを飼育中です。収益を、神様からの愛と励ましのメッセージとして届けます。

## ボランティア派遣

被災地へのもう一つの支援は、被災地の体験者を増やすことです。昨年の冬休みから休み期間を利用してボランティア派遣の計画立案と引率をし、この夏休みも計画しています。現地の光景は、参加者に焼きつき、自分は震災とどう向き合へ

## J-CaRM広島便り

「母国語を介さない人」として 在日外国人をしっかりと支える

ユニティ岡山鳥取 長安めぐみ

二〇一二年二月八日〜十日の三日間、カトリック岡山教会に、全国のJ-CaRMのメンバーが集い、全国研修会が開催されました。スタッフを含め百人を超える人々で交流ができたことを神様に感謝します。二〇〇七年から「ユニティ岡山鳥取」という愛称でJ-CaRM岡山は再スタートし、「出会い」「集まる」「交わる」「支える」「深める」をキーワードに活動をしてきました。その集大成が今回の全国研修会であり、あまり語られなかった在住外国人女性のDVの被害、その子どもたちの問題、そして、困難を抱える研修生問題や国際結婚、新たな東日本大震災の支援の問題等、幅広いテーマについて専門家を交え、三日間、当事者と支援者が出会える実り多い研修会でした。

教会の「母国語を介さない外国人への徹底した支援」の取り組みです。宗教という枠を超え、社会的な活動としてマニアル化し行われていきます。私たちは、常に国際交流、多文化共生という視点で向き合ってきましたが、「母国語を介さない人」というこのシンプルなたらえ方は、目からうろこでした。ただその困難のため教会に何ができるかを徹底的に精査しています。十八%が外国人という国際都市ケルンにぜひ学びたいものです。興味のある方はぜひお問い合わせください。



中でも、私の印象に残ったのは、梅田教会の荒川神父が

本研修会のために自ら翻訳し紹介してくださった、ドイツのケルン



広島司教区災害サポートセンター収支報告  
(2011年4月1日～2012年6月30日)

収入	献金	10,384,238
支出	支出合計	2,798,812
	事務運営費	15,840
	振込手数料	15,840
	旅費交通費	501,052
	支援費(派遣者の経費を含む)	2,281,920
	経費	1,075,000
	送料	37,900
	物資購入	169,020
	「地ノ森いこいの家」支援	1,000,000
	繰越	

どうなのか、自分はいかに生きるべきかを考えさせます。特に若い人には、召し出しを生む一つのきっかけだとも思っています。参加の後、再度ボランティアに行ったり、継続的な支援を実施している方もいます。司祭の仕事、モンテッソリの勉強に加えると、一時期多少の無理がかかります。でも、被災地はずっと非常時です。こちらも非常態勢で臨むことが大切です。賛同して旅費のカンパや折りで支援をしてくださる方も大勢います。蒲池さんの言葉が、支援への力を与えてくれます。広島教区での支援の輪が広がることを願っています。

えのみや  
**愛宮ラサール坐禅会創設一周年**  
世界平和記念聖堂保存活用委員会  
後藤 正史 神父

二〇一一年七月、第一回(復興というべきか)坐禅会を開催してから、毎月、原則、第三金曜日午後七時から二時間、参禅者十人ほどが一緒に座っています。かつて愛宮ラサール神父(世界平和記念聖堂献堂の発案者、推進者)が坐禅していたという、地下聖堂が坐禅会の場所です。この坐禅会創設に先立ち、愛宮ラサール神父に坐禅の指導を仰いだという、リーゼン

フーバー神父に坐禅と平和というテーマで、講演をしていただきました。  
二〇一〇年、愛宮ラサール神父の弟子、ヨハネス・コップ神父らエッセン坐禅会一行は、世界平和記念聖堂を訪問し、私たちと共に平和のミサを捧げ、ドイツ訪問を強く勧められました。熱いその思いに応えて、二〇一一年一月末、青葉憲明さん(本委員会メンバー、幟町教会)と私がドイツエッセンを訪問しました。ヨハネス・コップ神父の指導のもと、エッセン教区研修センター内の禅堂で、三十数人のドイツ人たち(ほとんどがカトリック)と共に、わたしたち二人は接心(数日に渡る坐禅会、この時は四泊五日)に参加できました。これが、愛宮ラサール坐禅会開催に至る、直接的な動きの始まりでした。この時、数日間、ほとんど沈黙でしたが、このような国際交流、平和構



愛宮ラサール神父

築のあり方があるんだと新鮮な感動と発見がありました。ドイツ訪問前、一ヶ月ほど一人で坐っていた私ですが、みんなで共に坐る意義を大いに体得できたように思います。  
世界平和記念聖堂地下聖堂においては、日本語や英語によるミサのほか、祈りの集いや聖体礼拝などが定期的に捧げられており、そこに坐禅会が加わり、聖堂の底から平和を築いていく思いで共に坐っておりま

す。坐禅というと、痛い思いを我慢しなくてはというイメージがあるようですが、椅子に坐つてよし、正坐してよし、結跏趺坐(けっかふざ)してよしです。坐禅をすると、ふだんのあれ  
これの事柄から、心や行動が解放される喜びを存分に味わう道が開けてきます。そして、よく黙想できるように、祈れるようになるから不思議です。そして、共に坐っている方々と、ドイツの仲間たちとも、もちろん関わりある方々ともしっかりとつながっていることも実感します。  
楽な気持ちで、ちよつとのぞいてみる気持ちで、愛宮ラサール坐禅会にご遠慮なくご参加ください。広島市内の方ばかりでなく、広島に立ち寄る機会がありましたら、ぜひ、一度共に坐ってみましょう。信徒、シスター、司祭からなる愛宮ラサール坐禅会は歓迎いたします。

地区便り

岡山・鳥取地区

信徒養成講座

二〇一二年度の「信徒養成講座」が四月十四日より始まり、「イエスさまに出会いともに絆を強めよう」のテーマのもと、六回の講座の内三回の講座を終えました。第一講座は山口教会の加藤信也神父様をお招きし「日常生活の中でのカトリック信者としてのあり方と私の体験」と題して、また第二講座は京都教区から大塚喜直司教様をお招きして行われました。第一講話は「京都教区における信徒養成の考え方」について、第二講話は「日本の信徒に望むこと」についてでした。

今回は倉敷教会へ九十名前後の参加者が集まり、近隣の福山、尾道教会の信徒の方達も来られました。第三講座は「養成推進チーム」が担当で、笠岡教会の瀧井英昭神父の「奉仕者としての心構え」でした。

伯雲ブロック

伯雲ブロックの展開

伯雲ブロックは出雲、松江、米子教会で構成し、年間六回の協議会で活動、司祭交代等の調整を図っています。主な活動内容として、永井隆博士平和祈願ミサ(三刀屋)、伯雲ブロック勉強会(今年のテーマは信仰年)及び各教会の黙想会への相互参加などです。

米子教会は、岡山・鳥取宣司評にも参加し貢献しようと思っても、地理的に距離が遠く、貢献も参画もほとんど出来ていないのが現状です。活動の拠点が山陽側にならざるを得ないのがその原因です。

司祭の減少、若者の教会離れや高齢化による信徒の減少があり、これに対応して確実に教会維持、より活発な活動を期待すべく教会間の連携がますます重要になります。

米子教会としても的を絞った協力関係を築きたく前向きに協議いたします。(米子教会 門原加納)

広島地区

広島地区女性連合会総会

五月十八日(金)、広島地区女性連合会総会が、世界平和記念聖堂で前田万葉司教様(顧問)、斉藤神父様(担当司祭)をお招きして、「信仰の再発見」をテーマで開催されました。司教様司式のミサ後の議事では、活動報告、収支決算、活動計画案、予算案、会則の改正が承認されました。

前田司教様は、午前の講話の中で、昨年六月一日教皇庁大使館での、広島司教受諾と署名に至るその場のあり様、心の動きを鮮明に語られ、父と子と聖霊の恵みに感動致しました。午後の講話は、洗礼の大切さ、洗礼の恵みを如何に生きるか、御聖体を戴く恵みについて具体的に語られました。

広島地区女性連合会

今後の予定

「尾張美濃の殉教地巡礼」

十月三日(水)～四日(木)

「研修会」日本の聖人・福者の歴史と証を学ぶ」二〇一三年一月二十五日(金)

海峡からの風 25

下関労働教育センターだより

●昨年十二月、日本を訪問した韓国の李明博大統領は「両国の障害になつていく慰安婦問題を優先的に解決する真の勇氣を持たなければならぬ」と述べ、野田首相は「法的に決着済みだ」「我が国の法的立場は決まっている」と、一九六五年の国交正常化時に交わした『日韓請求権協定』を法的根拠として『解決済み』を繰り返した。●しかし、政府は一九九一年八月二十七日の参議院予算委員会ですら「いわゆる個人の請求権そのものを国内法的な意味で消滅させたというものではございません。」と答弁している。要するに、日韓の国民個人の請求権は存在していると言っているのである。●ならば、「慰安婦」被害者の補償請求を日本が「法的に決着済みだ」と言うのは欺瞞でしかない。例えば、『日ソ共同宣言』のシベリア抑留者のソ連に対する請求権

について、一九九一年三月二十六日の参議院内閣委員会では「我が国民個人からソ連またはその国民に対する請求権までも放棄したものでないというふうに考えております。」と答弁している。●国家と国民とは権利主体が違うので、国家が勝手に国民の権利を放棄・消滅させることは許されず、憲法第二十九条の「財産権」に抵触する。侵さざるを得ない場合、私有財産は、正当な補償の下に、これを公共のために用いることができる。」と「正当な補償」をしなければならぬのである。もちろん相手国の国民に対しても同じことである。●こういう答弁を国会という場でしておきながら、具体的な請求や要請に対して、日本国民の請求権は存在しても、韓国国民の請求権は『解決済み』と抗弁するのは自己矛盾であり、国際社会に対しても恥ずかしいダブルスタンダードでしかない。

(細江教会 廣崎リュウ)

山口・島根地区

■津和野乙女峠まつり

五月三日(木)に第六十一回「津和野乙女峠まつり」が行われた。あいにくの雨模様だったが、全国各地から千六百人以上の人々が乙女峠の地に集い、前田万葉司教様初めての司式によるミサが行われた。(※詳細は、広島教区ホームページ「殉教・巡礼地(乙女峠)」参照。)



乙女峠まつりに先立ち、山口島根地区少年の集いでは二日(水)～三日(木)にかけて「少年乙女峠巡礼」を実施した。広島や山口の小学四年から高校三年生までの子ども達とリーダー総勢八十名が参加した。



■二〇一二年度養成関係

「聖書力講座」(山口天使幼稚園) 講師 山浦玄嗣氏(はるつく)：六月十七日(日)。百四十余名参加。

「集会祭儀司式者・聖体授与の臨時の奉仕者研修会」(山口) 講師 清水弘神父：六月二十三日(土)。七十余名参加。

「信徒の神学」(宗像黙想の家) 講師 百瀬神父：②七月七日(土)～八日(日)、③十一月十日(土)～十一日(日)、④二月十六日(土)～十七日(日)。

「祈りの体験二期」(地区事務局) 講師 ラフオント神父：⑧七月二十八日(土)、⑨九月八日(土)、⑩十月二十七日(土)、⑪一月十九日(土)、⑫三月二日

広島教区の施設 14  
「書院の新しい顔」を指して  
聖パウロ書院

一九六四年七月、被爆地・広島に聖パウロ女子修道会が設立され、三年後、幟町に聖パウロ書院が開設されました。



現在、宣教方法は時代の変化により変わってきていますが、「教会の中で人々と共にする歩み」は同じ線上にあり、四十五年の聖パウロ書院の歩みを貫く特徴でもあります。

現在、書院(案内所を含む)は、日本全国に九箇所ありますが、幟町書院は国の重要文化財である世界平和記念聖堂を有するカテドラル、幟町教会の入口という恵まれた位置にあります。信者のみならず多くの観光客、建築関係者、病气や悩み・問題をかかえた様々な方が訪れ、教皇ベネディクト十六世が言われるまさに「異邦人の庭」です。そこに私たちは派遣されました。

書院には年間約一万二千の方が立ち寄り、キリスト教関係書籍、CD・DVD、カード類、十字架・ロザリオ・ご像からストラップにいたる種々の用品が人々の手にわたっていきま



書院は二人の担当者信徒の協力者により運営されています。しかし、会員の高齢化に伴い、会内では使徒職の活性化を目指した見直し、刷新が行われています。書院にも「人々を迎え入れる場、福音宣教への開かれた場」となるよう呼びかけられ、新たな意識・視点と具体化が求められています。常に目指されてきたこの課題にどのように取り組んでいくのか、「新しい顔」を模索する日々です。

「聖書力講座」(山口) 講師 雨宮神父：九月九日(日)。

「典礼研修会」(山陰と山口) 講師 具神父：九月十五日(土)、十六日(日)、十七

日(月)。七月十七日(火)の養成委員会で詳細決定。

### 青少年の活動

#### 中国ブロック カトリック高校生大会 『Life』

三月二十六日～二十九日、広島学院で、第四十六回中国ブロックカトリック高校生大会が開催されました。

年々参加者が少なくなっていますが、今回は中学三年生から高校三年生まで

六十七名が参加しました。今回のテーマは『Life』で、「人生・いのち・生活」のサブテーマごとに二つのグループがありました。

大会では、今までの人生を振り返り、自分にとって大切なものをライフランキングとして表しました。

「人生」のグループは神学生の話やマザー・テレサの人生と、今までの自分の人生を比較し、分かち合い

#### 「多くの司祭と苦楽を共にして得たもの」

職町教会

後藤 正史 神父

一九九〇年三月二十一日、わたしが三末司教の手によって司祭叙階されてから、二十二年の歳月が流れました。司祭は教区長司教のもとにあって司祭団を形成しています。そして、司祭は神の民、キリストの神秘体なる教会の中であって牧者となつて宣教司牧（＝司牧）We are OK. And＜宣教＞you are

ました。「いのち」のグループは平和資料館に行き、命について考え分かち合いました。「生活」のグループは東日本大震災の映像や実際にボランティアに行った方の講話を聞き、今の自分に何ができるかを考え、分かち合いました。最後に各グループ発表を行い分かち合ったことを発表しました。

普段の生活の中で分かち合うことの少ない高校生た

楽を共にする恵みを受けていたという歴史的事実に私自身驚いたものでした。

共に働いた司祭たちの所属をみて、また驚きを新たにしています。教区司祭八人（早副、野間、長谷川、豊田、野中、西江、淳心、至六人（バン・ポーベン、木陰、ミシエル、レミ、レネ、ジェリー）、イエズス会二人（レデスマ、ハビエル）、韓国フサン教区一人（金ヨハネ）、ミラノ外国宣教会一人（アルベルト）、フィリピン宣教会二人（スティーブ）と広島教区で宣教司牧しているすべての修道会、宣教会の司祭たちと親しく交わり

の時、協働の時を過ごすことのできた、めずらしい司祭に数え

ちにとつて、この四日間得たものは貴重なものになったと思います。

（岡山教会 中村彩乃）



られるかもしれません。国籍で言うと、ベルギー、スペイン、イタリア（以上ヨーロッパ）、コンゴ民主共和国（アフリカ）、フィリピン、インドネシア、韓国、日本（以上アジア）と八か国にも及びます。

年齢も、民族も、文化も、性格も異なる司祭たちと共に歩む中で、自然と「多様性の中の一致（unity in varieties）」、「カトリック教会（普遍的）、公なる教会」を体験、実感できました。主において一つとなる喜びを味あわせてくださった司祭の皆さんに感謝を捧げつつ、今後も多くの司祭たちと協働しながら、福音の喜びを伝えていきたいと思えます。

#### 小学五年生～中学三年生の皆さまへ 練成会のお知らせ

『信仰からの奉仕  
信仰への奉仕』



夏休みも近づきました。今年も楽しい企画を用意していますので、たくさんご参加ください。日時：八月九日～十一日 場所：カトリック岡山教会 問い合わせ：野中神父 詳しくは各小教区配布の案内をご覧ください。



今年度からまた教区の広報担当司祭に任命されました。平和の使徒推進本部からも様々なお知らせを教区全体に伝えていきたいと考えています。

教区報が皆さんにとって身近で、親しみやすいものになりますように・・・ これからも様々なご意見をよろしくお願いたします。（にん）



(73)